

≪今週号の主な内容≫

■先週・今週の報道発表

廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則の一部を改正する
省令案に対する意見の募集（パブリックコメント）について
【環境省平成 29 年 2 月 20 日発表】

■RPPC 事務局からのお知らせ

NPO 法人庄内リサイクル産業情報センター発信のメルマガ 17 号
（2017 年 2 月）のお知らせ

■リサイクルポートに関連する最新の情報

1. 「ブルーカーボン研究会」の設立記念講演会が開催される
2. 八代港に官民連携国際クルーズ拠点を形成
3. 小松島港沖洲（外）で床掘浚渫土を固化処理し埋立地に投入

=====

◇先週・今週の報道発表

廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則の一部を改正する
省令案に対する意見の募集（パブリックコメント）について

詳細は、下記をご覧ください。

<http://www.env.go.jp/press/103683.html>

【環境省 平成 29 年 2 月 20 日発表】

=====

◇RPPC 事務局からのお知らせ

NPO 法人庄内リサイクル産業情報センター発信のメルマガ 17 号
（2017 年 2 月）のお知らせ

NPO 法人庄内リサイクル産業情報センターより、NPO 法人発信のメル
マガが届きました。添付ファイルをご覧ください。

=====

◇リサイクルポートに関連する最新の情報

1. 「ブルーカーボン研究会」の設立記念講演会が開催される

ブルーカーボンに関する課題検討や藻場等の拡大に向けた枠組み
の構築を目指した「ブルーカーボン研究会」の設立記念講演会が 2 月
10 日、東京都内で開かれた。当日は国交省港湾局、水産庁漁港漁場整
備部から行政報告があったほか、研究会委員 3 名による基調講演が行わ

れた。同研究会の検討を受け、我が国における沿岸域の藻場造成や生物共生型護岸整備等の取組みが加速することが期待される。

研究会は官民の有識者6名や関係7団体で構成しており、みなと総合研究財団（みなと総研）、港湾空港総合技術センター（SCOPE）が事務局を務める。またオブザーバーとして国交省港湾局、水産庁が参画している。

海洋において海草等により吸収・固定される炭素『ブルーカーボン』のCO2削減効果に着目し、▽沿岸域における藻場の分布等の現状把握、▽藻場等の拡大に向けた課題、▽ブルーカーボンの評価手法、▽藻場等の拡大に向けた社会的な枠組み、等についての情報共有を図っていく。

【港湾空港タイムス】

2. 八代港に官民連携国際クルーズ拠点形成

熊本県、ならびに九州地方整備局熊本港湾・空港整備事務所は八代港が官民連携国際クルーズ拠点形成する港湾として選定されたことを受け、外港地区に水深12m延長450mのクルーズ対応岸壁を計画している。同計画は2月3日に開催した熊本県地方港湾審議会です承されており、今後交通政策審議会港湾分科会に上程して計画決定し、29年度から直轄で事業化していく見込み。ジャケット構造などで整備期間を短くする工法を採用し、平成32年のクルーズ船受入れを予定している。岸壁は耐震強化仕様とし、災害時には救援物資等の補給基地としても機能させる。

【港湾空港タイムス】

3. 小松島港沖洲（外）で床掘浚渫土を固化処理し埋立地に投入

四国地方整備局小松島港湾・空港整備事務所は徳島小松島港沖洲（外）地区防波堤築造等工事の入札手続きを進めている。沖洲（外）地区防波堤築造予定地の床掘浚渫、ならびに金磯地区岸壁（マイナス11m）泊地の浚渫等が内容。発生する浚渫土は津田地区において徳島県が事業中の埋立地に揚土・固化処理する。

対象事業のうち沖洲（外）地区では現在、港内の静穏化確保として、防波堤の延伸事業を進めており、これまでに防波堤築造予定地の地盤改良（SCP）を8割程度終えている。今後は29年度に残っている地盤改良を終えるとともに、その後にマウンド造成やケーソン設置など築造工事に入っていく。

また金磯地区では予防保全事業が始まっており、同岸壁はクルーズ船の受入れも予定している。このため岸壁改良に合わせて前面泊地の浚渫を実施する。

両地区で発生した浚渫土は津田地区の埋立柱として有効利用する。県の要請に応じて固化処理も行う。今回工事で発生する浚渫並びに運搬・揚土・固化処理量は沖洲（外）地区の防波堤の床掘土が約1万立方m、金磯地区が約5000立方m。

【港湾空港タイムス】

////////////////////////////////////

発行者：RPPC 広報部会

部会長：徳田 英司 新日鐵住金（株）

部会員：山崎 和宣 五洋建設（株）

 木村 竜也 東京都

 梅木 重光 （株）酒田港リサイクル産業センター

 新谷 聡 りんかい日産建設（株）

リサイクルポート推進協議会 事務局

一般財団法人みなと総合研究財団（内） 担当：本野、清水、菅木

URL：www.rppc.jp E-mail：rppc_jimukyoku@wave.or.jp

////////////////////////////////////

- 会員主催や会員に関係した催し物（セミナーなど）の情報がございましたらご連絡下さい。開催案内等の情報をメルマガで配信致します。
- メルマガ配信先に変更がある場合、事務局までご連絡下さい。
- メルマガに関するご意見、ご要望がありましたらご連絡下さい。

PORTTOWN MAGAZINE

<17号~2017年2月>

2017年2月15日配信

このたびの熊本県、大分県および、鳥取県を震源とする地震により
被害を受けられた皆さま、その家族の方々に心よりお見舞い申し上げます

みなさん、こんにちはメルマガ編集担当の齋藤です。今月も日本海側リサイクルポート、
能代港、酒田港、姫川港、境港、各港の最新情報を皆さんにお伝えしていきたいと思ひます。

それでは PORTTOWN MAGAZINE スタートです。

//////// I N D E X //////////////////////////////////////

① 能代港ニュース

- ・秋田県内3港、過去最高の輸出額514億。
- ・東北電力(株)能代火力発電所3号機建設工事、賑わい中で業者の努力。

② 酒田港ニュース

- ・酒田風車計画 山形県調査結果公表 「総合的に適正」。
- ・平成28年度酒田港ポートセミナー開催。

③ 姫川港ニュース

- ・姫川港機能充実 初の勉強会開催。

④ 境港ニュース

- ・県内初の「水上太陽光」 米子、境港の中海干拓地。

⑤ 編集後記

■ 能代港ニュース

○秋田県内3港、過去最高の輸出額514億。

秋田、能代、船川の県内3港の2016年の輸出額が前年比1・7%増の514億58万円で過去最高を更新したことが27日、秋田船川税関支署のまとめ（速報値）で分かりました。増加は4年連続。北米向けの自動車部品や、東南アジア向けの段ボール原紙の供給量増加がけん引しています。

輸入額は前年比8・8%減の1556億4878万円。過去最高だった13年以降、3年連続で減少しました。ボリビアからの亜鉛鉱など非鉄金属鉱や、ロシア・北欧からの住宅用集成材など木材が10%以上増えた一方、火力発電向け重油などの石油製品は93・1%減と大幅に落ち込んだため、輸入額全体を引き下げました。

○東北電力(株)能代火力発電所3号機建設工事、賑わい中で業者の努力。

昨年3月から本格的化した東北電力(株)能代火力発電所3号機建設工事は、杭打ちや基礎工事等が順調に進み、来月からは中心的施設であるボイラー棟やタービン建屋の建設工事が始まる予定となっています。

この関連で、現在500名規模の作業員が出入りしていますが、建設工事のピークを迎える平成30年6月から同12月頃までの半年余りの期間には、おおよそ1,000人規模の工事関係者が関わる見通しで、街の賑わいに対する貢献も大いに期待されているところです。

いっぽう、関係者の頭を悩ませるのが宿泊施設のキャパシティー不足で、ホテル業、旅館業ともにある程度の対策を講じてはいるものの、圧倒的需要に応えることが困難な状況となっていたことから、設備工事元請け業者等の計らいによって工事関係者向けの簡易住宅を「コンテナハウス」で賄うこととなりました。完全なる地元受注で整備した簡易住宅は、年明けから供用が始まっていて、主に県外の工事関係者らを対象に最大200人を収容でき、付属施設として食堂棟や浴槽棟、シャワー棟が備えられています。

投資額が1,000億円とされる能代火力3号機建設工事。その波及効果を最大限に活かすための努力が求められています。

■ 酒田港ニュース

○酒田風車計画 山形県調査結果公表 「総合的に適正」

庄内海浜県立自然公園内の酒田市十里塚地区に県と同市が3基ずつ計6基の風車を建設する計画で、県は1月31日、風車が周囲に与える独自の環境影響調査の結果を公表した。騒音被害や生態系に与える影響は小さいとし、「総合的に適正」との認識、調査結果は同市役所など8カ所で3月1日まで閲覧でき、各窓口で同15日まで住民の意見を受け付ける。2月19日午後1時半から同市の東北公益文科大学で住民向け説明会を実施予定。

○平成28年度酒田港ポートセミナー開催。

1月16日（月）、山形県新庄市で酒田港ポートセミナーが開催された。

山形県が主催したこのセミナーは、県内や近県企業に酒田港をPRし、利用促進につなげることを目的とし行われているもの。今回は、山形県最上地域で初の開催となった。山形県の酒田港プレゼンテーションに引き続き、国土交通省酒田港湾事務所の上原所長と同山形河川国道事務所の廣瀬所長が情報提供を行なった。次に、サミット酒田パワー(株)高瀬代表取締役、花楯産業(株)細川専務取締役、境港管理組合細羽事務局長の3氏による事例発表が行われ、参加した酒田港利用企業や関係機関などの出席者約160人は、熱心に耳を傾けていた。

■ 姫川港ニュース

○姫川港機能充実 初の勉強会開催

糸魚川市の姫川港の機能充実を図り、地域産業の振興を目指す勉強会（姫川港整備促進同盟会主催）が同市大野のホテル国富アネックスで開かれた。企業や行政などの担当者ら約70人が集まり、最近の港湾の動向や課題などについて学んだ。市によると、姫川港に関する勉強会開催は初めて。17日に開かれた勉強会では国土交通省新潟港湾・空港整備事務所の奥谷丈（たけし）所長（52）が「最近の港湾行政について」と題し講演した。

奥谷さんはインターネット通販などで地域の名産品が全国に流通している事例を挙げ、物流のサービス水準の向上を求めたほか、訪日外国人観光客やクルーズ船愛好者らによるクルーズ人気を紹介し、港湾機能の充実を訴えた。

さらに日本海側の強風を生かした自然エネルギーの可能性も説明。村上市の岩船沖で検討されている洋上風力発電を例に、港湾周辺での発電施設立地の実現性も紹介

し、「洋上クルーズや自然エネルギーにどう取り組んでいくかが、最近の港湾行政の重要な課題になっている」と話した。

■ 境港ニュース _____

○鳥取県内初の「水上太陽光」 米子、境港の中海干拓地

関東を中心に再生可能エネルギー発電所を手掛ける京葉プラントエンジニアリング（千葉県市川市）が鳥取県米子、境港両市の中海干拓地調整池に建設した鳥取県内初の水上太陽光発電所が完成し17日、関係者に公開された。両発電所の年間発電量は最大計2116メガワットで、一般家庭約590世帯分に当たる。

関係者らに公開された鳥取県内初の水上太陽光発電所、米子市彦名新田、二つの発電所の総工費は6億9900万円。太陽光パネルを米子市彦名新田の彦名調整池に2640枚、境港市中海干拓地の弓浜調整池に4752枚設置した。

事業期間は当面20年間とし、発電した電力は全て中国電力に売却する。

同社によると、パネルを設置することで日光が遮られ、池のアオコの発生を抑えられる利点もあるという。

■ 編集後記 _____

最後まで読んでいただきありがとうございます。

「今年は雪が少ないな～」と思っていたその直後の1月中旬の大寒波。読者の皆様には体調を崩されてはいないでしょうか？「山形県なら雪は見慣れているでしょ？」と思われがちですが、今回の大寒波は、例年より雪の少ない正月を過ごした山形県民もこの記録的な大雪にびっくりしながら雪かきをしていました。春はまだか？と気持ち急いでしまう2月ではありますが、酒田市では今年も3月1日から恒例の「酒田雛街道 湊・酒田の雛めぐり」がはじまります。イベント開催の便りが、厳しい冬が終わりをつげ、暖かい季節の訪れを予感させてくれます。暖かい春はもうすぐですね。

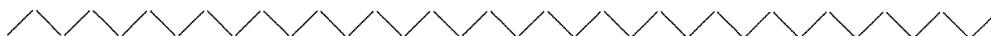
それでは、3月15日のPORTTOWN MAGAZINEをお楽しみに。

NPO法人庄内リサイクル産業情報センターFacebook ページはこちら！



<https://www.facebook.com/SHONAIRECYCLE/>

※他港の情報も掲載中です！！



PORTTOWN MAGAZINE

配信日 毎月15日

